

焼却灰運搬業務安全管理基準

第1章 総則

(目的)

第1条 この基準は、山口市（以下「市」という。）が委託する焼却灰運搬業務の履行に際して、業務の安全を確保するため、必要な事項を定めるものとする。

(基準の適用)

第2条 この基準は、清掃工場構内及び一般公道における焼却灰運搬業務に適用する。

(法令及び基準の遵守)

第3条 焼却灰運搬業務に従事する市職員（以下「職員」という。）及び受託者は、労働安全衛生法令及びこの基準を遵守しなければならない。

第2章 安全運行管理

(安全運行管理基準)

第4条 受託者は、次の各号に掲げる運行管理の基準を、あらかじめ定めておかなければならない。

- (1) 平常時及び事故その他異常時における焼却灰運搬車の運行経路及び運行方法並びに指令系統及び連絡系統
- (2) 市との連絡事項及び連絡方法
- (3) 緊急時に連絡すべき事項、連絡先及び連絡方法

(防災体制)

第5条 受託者は、一般公道における交通事故による焼却灰の飛散その他緊急の事態に備えて、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則（昭和46年厚生省令第35号）第1条の16に規定される措置を講ずることができる体制を整備しておかなければならない。

(運転者の教育)

第6条 受託者は、焼却灰運搬業務に使用する運搬車両（以下「運搬車両」という。）の運転者（以下「運転者」という。）に対して、次の各号について、定期的に教育を実施しなければならない。

- (1) 焼却灰の性状及び取扱方法
- (2) 焼却灰積込方法及び異常時の措置方法
- (3) 交通安全運転及び道路交通事故発生時の対応方法

第3章 入構及び運搬車両

(入構手続き)

第7条 受託者は、運転者をあらかじめ市に届けなければならない。

- 2 運転者は、清掃工場へ入構の都度、その氏名及び運転する運搬車両の自動車登録番号を市に届け出なければならない。
- 3 運転者は、入構者安全教育を受講しなければならない。

(構内での遵守事項)

第8条 構内において運転者は、次に掲げる各号を遵守しなければならない。

- (1) 車両を離れる時は、ヘルメットを着用すること。
- (2) 市が許可した場所以外の場所に、立ち入らないこと。

(管理上の指示命令)

第9条 構内の安全を維持するため、市は職員を介して運転者に対して指示、命令することができる。

2 指示を受けた運転者は、その指示内容を速やかに遵守しなければならない。

(入構車両)

第10条 受託者は、運搬車両をあらかじめ市に届け出なければならない。

(車両の仕様)

第11条 受託者は、次の各号の基準を満たす運転車両を使用しなければならない。

- (1) 主灰及び返却灰の運搬車両は、金属製天蓋付の水密構造ダンプトラックであって、荷台内寸法が2m以上であること。
- (2) 飛灰の運搬車両は、気密構造の粉粒体運搬車両であること。また、車両転倒等の事故時においても、内容物の漏洩がない構造であること。
- (3) 車高が3.8m以下であること。
- (4) マフラーに、火の粉防止装置が装着されていること。

(車両の清掃)

第12条 受託者は、焼却灰以外の異種物の混入を防止するために、運搬車両を清浄に清掃しておかなければならない。

第4章 安全運行管理

(運搬経路)

第13条 受託者は、清掃工場から運搬目的地までの運搬経路を、あらかじめ市に届け出なければならない。

(構内交通)

第14条 運転者は、清掃工場構内では次の各号に従って、運搬車両を運転しなければならない。

- (1) 構内動線に従って運搬車両を運行すること。
- (2) 徐行運転を行うこと。
- (3) 標識及び表示に従い運転すること。
- (4) 入出門の際には、所定の位置で一旦停止して、安全確認をすること。
- (5) 運搬車両を後退させる場合には、原則として誘導者を置き、合図により後退させること。
- (6) 市が指定した駐車場以外に駐車しないこと。
- (7) 走行中に携帯電話を使用しないこと。

第5章 焼却灰積込作業

(保護具の着用)

第15条 職員及び運転者は、焼却灰を取り扱うときには、適正な保護具を着用しなければならない。

(主灰の積込)

第16条 職員は灰クレーンを操作し、運転者は運搬車両を操作して、主灰を運搬車両に積み込むものとする。

(飛灰の積込)

第17条 飛灰の積込み操作は運転者が行い、職員はその操作を指導及び確認するものとする。

- 2 職員及び運転者は、運搬車両の上部で作業を行うときには、転落防止のため安全帯を使用しなければならない。
- 3 運転者は、飛灰の積込みを行う度に清掃工場に備え置いた掃除機にて、運搬車を清掃しなければならない。

第6章 事故時の措置

(公道での事故処理)

第18条 受託者は、公道における事故について受託者自らの責任において、監督機関の指示に基づいて、適正かつ迅速に処理しなければならない。

(清掃工場構内での事故処理)

第19条 職員及び運転者は、清掃工場構内で事故が発生した場合には、直ちに負傷者を保護し、速やかに市に報告しなければならない。

第7章 入構の禁止

(入構の禁止)

第20条 市は、運転者及び運搬車両が前条までの規定に違反する場合には、入構を禁止することができる。

2 市は、運転者が次に掲げる各号の1つに該当するときは、その者の入構を禁止する。

- (1) 凶器または危険物を所持しているとき
- (2) 酒気をおびているとき
- (3) 暴行、暴言、脅迫、教唆、煽動又はこれらに類似の行為をしたとき
- (4) 許可なく市や職員の物品を持ち出し、又は持ち出そうとしたとき
- (5) 故意、怠慢または重大な過失により清掃工場の機械、機具、建物及び工作物等を破損又は紛失したとき

附 則

この基準は、平成23年4月1日から施行する。

(参考)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則(昭和四十六年九月二十三日厚生省令第三十五号)

(特別管理一般廃棄物の処理の受託者が講ずべき措置)

第一条の十六 [令第四条の三第二号](#) の規定による環境省令で定める措置は、次のとおりとする。

- 一 引き続き特別管理一般廃棄物の飛散、流出又は地下浸透の防止のための措置
- 二 飛散又は流出した特別管理一般廃棄物の除去のための措置
- 三 その他人の健康又は生活環境に係る被害を防止するための応急の措置